

それは資格勉強をするためにいつも利用している図書館で起こった。

私の住んでいる田舎町の図書館は建物も古い。

私は狭苦しく並ぶ木造の本棚からする木と紙の匂いが好きで、人のあまり来ない奥のスペースで勉強するのが大好きだった。

その日も平日の休みを利用して一日中勉強していた。

もう少しで図書館も閉館の時間だ。

参考書もノートも閉じて、外した眼鏡もケースに戻して。帰る前に少し休憩しようと背の高い本棚の間をなんとなく歩いていたときだった。

本棚と本棚の間を、正面から男の人が歩いてきた。

三十代くらいだろうか、背が高く黒髪に眼鏡、それから清潔そうな服装。図書館ではよく見る感じの人。

狭い本棚の間ですれ違うには多少体をずらさないと触れ合ってしまう。私はその男の人が近づくにつれて体を

斜めに向けた。

だけど。

すれ違う瞬間、その人に背後から抱きしめられた。

「……っ！？」

背の高いその人の腕の中にすっぽりと収まってしまった私の口を男の大きな手のひらが塞ぐ。

「図書館なんだから騒がないでよ」

耳元で囁くような声でそう言われたけれど私の体は本能的になんとか逃げようとするのをやめない。

その体を男の手がまさぐってくる。

「ずーっと気になってたんだよね、お姉さんのこと。俺たちと遊ばない？」

俺たち？

ふと顔を上げると男がもう一人近づいてきていた。

明るい茶色の長い髪、その隙間から見える目が笑っている。

「お姉さんよくこの隅っこで勉強してるよね」

「いつも真面目に勉強してるお姉さんがどんな乱れ方するのか気になっちゃってさ」

男の腕の中で二人に見下ろされる私。

すると混乱で抵抗を忘れた私の胸を背後の男の手がふわりと包んだ。

それから薄手のセーターの上から乳首の位置を、きゅ♡と指が挟む。

「っ！」

じわあ♡

挟まれたところにくすぐったいような感覚が広がって、体がビクついた。

「俺もしてあげるね」

そう言って茶髪の男の手も反対の胸に伸びてきて。

「このへんかな」

きゅ♡

摘まれる♡

「…！」

きゅ♡きゅむ♡きゅ♡きゅ♡きゅ♡

後ろから回された手と前からの手にセーター越しに挟まれた乳首が♡

熱を持って尖っていく♡

「…っ、……、♡」

きゅ♡きゅむ♡きゅむ♡

上下に優しく挟む指が今度は、

すり♡すりすり♡♡すり♡♡すり♡♡すり♡♡

左右に動いて刺激してきて♡

「、♡……、っ♡」

ビクビクと体が揺れてしまう♡

「しー…♡静かにね」

男がゆっくり私の口から手を離すと、今度は正面にいる男が私の顎を掴んで、

ちゅ♡

唇を重ねてきた♡

ちゅう♡

そのまま小さく吸い付き、

ちゅ、ちゅ、ちゅ♡

啄んで、

……ぢゅっ♡♡

上唇も下唇も密着させたまま強く吸うと角度を変えて

きて♡

れ♡

隙間に侵入してくる舌♡その舌は、

れる♡♡れるお♡

唇のすぐ内側の粘膜を撫でると、

れる♡♡

ゆっくりと私の口内へ進んできた♡♡

「……、♡♡」

丁寧に蠢く舌に頭がぼーっとしてくる♡

その舌に夢中になっている間も乳首はきゅむ♡きゅむ

♡すり♡すり♡と挟まれ擦られ続けていた♡♡

「だんだんえっちな顔になってきたね♡」

「…！ちが、」

「しー♡この隅っこ、全然人来ないけど大きい声出したらさすがに聞こえちゃうよ？」

更に深く重なる唇に、奥まで入ってくる舌♡

舌は私の舌に重なり擦り合わせるように前後に動く♡

それから舐め回すように舌の裏へ移動してまた表へ戻

ってきて♡

されるがままに唇を正面の男に捕らわれていると、その下で二人の手に乳首は弄ばれている♡♡

き、気持ちよくなっちゃう……♡♡♡♡

ずーっと勉強と仕事でろくに男性経験などない私、こんなに気持ちいいキスがあるなんて知らなければ、二人の男の人に両乳首を同時にいじられるなんて体験もしたことがないのだ♡♡♡

「…♡♡……ふ♡う♡」

絶対だめ、こんなところでこんなこと、だめ♡
分かっているのに抵抗できない♡
抵抗する気が起きない、流されてる♡♡

「ここ、どうかな♡」

背後の男が私のジーンズのボタンを外し始めた♡
くつろげるとすぐにジーンズをずり下げて、現れた下着の上を男の指がなぞる♡

「あ〜…♡これ濡れてるんじゃない？ねえ、足広げて♡」
広げて、と言いながら閉じた足に押し込こんでくる指♡
無理やり広げさせられる♡♡

男の指がクロッチの部分を奥へ撫でると、

ぬりゅ♡♡

布の中の感触で自分でも分かってしまった♡

そこがぬるついているのが♡♡

「乳首触られてキスされただけでこんな濡れちゃったの？♡お姉さんって真面目な顔してドスケベなんだ♡」

そう言いながら男は下着の隙間から指を侵入させてくる♡♡

すぐにその指はぬかるんだそこを確かめるようにぬめりへ沈んで、それからその濡れた指で♡

くちゅ♡

くちゅ、くりゅ♡♡

クリトリスに触れた♡♡

「ッ♡♡♡♡」

乳首を挟まれたときとは比べものにならない熱が下半身を焦がす♡

反射的に足を閉じてしまって男の指も挟んでしまったけれどその指は尚もクリトリスを刺激してきた♡♡

第一関節だけを曲げて、くちゅ♡くちゅ♡とくすぐってくる♡♡

「……—～っ♡♡～～～ッ” ！♡♡♡」

溢れそうになる声はキスしている男に塞がれてしまった♡♡

二人の男に挟まれた私は体を不自然に曲げたまま両乳首を触られクリトリスをくすぐられ、顎を上げて声さえ飲み込まれている♡♡♡

れる♡♡れる、れるお♡れるろれるろれる♡♡♡れるれる♡♡

くちゅくちゅくちゅ…♡♡くりゅ♡♡くりゅ♡♡くりゅ♡♡

ひたすらに乳首とクリトリスに与えられる刺激に足が震えてきた♡

踏ん張ろうと力を入れれば入れるほどお腹の奥まで力んでしまって、そうするとこの気持ちいい感覚まで大きくなって♡

(やばい……このままじゃイっちゃうう…♡♡)

何かに縋りたくて思わずキスしてくる男の腕を掴む♡
すると男は今まで私の口内でしゃぶっていた私の舌を
♡

ぢゅる…っ♡♡

吸い出して、まるでそれをしゃぶるみたいに窄めた唇
でしごいた♡♡

ぢゅるる、ぢゅるるっ♡♡

舌の端に当たる細かい振動♡
そのゾクゾク♡が頭のとっぺんから下半身へ走ってい
って、目の焦点が合わなくなって♡

(あ♡♡イク…♡♡♡)

「…っ、ん” う……！！♡♡♡♡♡」

ビクンッ♡♡ビクンッ♡♡

私は全身を震わせた♡♡

「お姉さん、今度は俺とキスしようか♡」

まだ絶頂の余韻も冷めないうちに体をひっくり返され
本棚に背中を押し付けられた♡♡

今度は今まで背後にいた黒髪の男と向き合う♡

男のにやついた顔が降りてくると同時に男の手は私の
乳首をまだセーターの上から撫でている♡

男の唇が私の唇に触れるのと同時に、その手は私のセ
ーターをめくり上げた♡

外気に晒されて粟立つ素肌♡男はブラにまで手を突っ
込み胸を掬い上げると、

かりっ♡

尖った乳首を弾いた♡♡

かりっ♡かりっ♡かりかりかりかりっ♡♡

「うゝ、ツツ♡♡んうう♡♡♡♡♡」

敏感になったその突起に鋭い刺激を与えられて背中が
伸びる♡

背の高い男のキスのせいで顎が上がり、男の指がどう

動いているのかは分からない♡

それが余計に感覚を鋭くさせて、上下に弾かれる乳首の皮膚の伸縮まで感じてしまうようで♡♡♡

かりっかりっかりっ♡♡かりかりかりかりかりっ♡♡♡

大きく弾かれたり、細かく振動させられたりすると腰が引けてしまう♡♡♡

「じゃあ今度は俺がこっち♡」

足元に茶髪の男がしゃがんだ♡

男は足首に溜まっていた私のジーンズを引き抜くとすぐにためらいもなく下着まで抜き取ってしまった♡♡

上半身は捲り上げられたセーター、下半身は靴下に靴だけ、という心許ない格好の私の腰に、男は抱きつくように腕を回す♡

そしてそのまま顔を私の土手に押し付けて、口でクリトリスを探り当てると♡♡

ぢゅぅぅ…………♡♡♡♡♡

皮ごと引っ張るように吸った♡♡

「……ッ あ♡♡♡♡♡」

「こらこら♡ちゃんとキスして♡♡」

ガクッ♡と沈んだ体を、黒髪の男がまた本棚へ押し付けてくる♡

ちゅ♡れる♡♡れる♡♡れる♡♡

降ってくる口内を蹂躪されるようなキスに♡

かりかりっ♡♡かりっ♡かり、かり、かり♡♡

弾くように乳首を震わせてくる指♡

ぢゅう♡♡ぢゅううう……っ♡♡♡ぢゅう♡♡

それから腰を固定するように抱きしめながら皮ごとクリトリスを吸引する唇♡♡

まだ絶頂の余韻も冷めきらないうちからまた全身に与えられてしまった快感に手足が突っ張っていく♡

喘ぐことすら許されずただただ気持ちいい感覚だけ体に叩きつけられるように膨らんでいって♡♡

(なにこれえ……♡♡こんなきもちいいのしらな……、)

うっとりと目を細め口がだらしなく開きかけた瞬間、

ぎゅっっ♡♡♡♡♡

セーター越しじゃない、生の乳首を♡
指が挟んだ♡♡♡

「……っ”っ”♡♡♡♡♡」

引き攣ったような息が漏れ、それも男に吸われる♡♡
♡

「…お姉さん、気持ちいい？♡」
キスの隙間、至近距離で目を合わせながら小さい声で
そう聞かれる♡♡

「……、………わかんない♡♡」
「そうなの？こんなに気持ちよさそうな顔してるくせに
♡」

唇が触れ合ったまま囁かれて、くすぐったくて目を閉じた♡

その間も乳首はまたかりかり♡と搔かれ、クリトリスは甘やかすように吸引されている♡♡

「ちんぽ、欲しくない？♡♡」

「…んえ、」

「キスと乳首とクリだけでこんなにト口顔になっちゃう

お姉さん、ちんぽでおまんことん♡されたらどんな顔するか見てみたいな～♡♡」

「そ、それは、だめ…………、ツツ！？」

まるでその会話が合図だったかのように、腰に巻きついていて男の腕が解かれ私のおまんこの入り口に指が当てられた♡♡♡

「ここ、ほしいでしょ♡♡」

そう下からも声がする♡

その指がゆっくりと埋められていく♡♡

十分にぬかるんだ私のおまんこが♡二本の指で広げられてしまう♡♡

「は、あ…………♡♡あ♡♡♡」

ゆっくり入ったそれはすぐに、おまんこの入り口に男の指の付け根を押し付けられるまで埋まってしまった♡♡

そうされながら同時に乳首を掻かれクリトリスを吸われ♡♡

否定の言葉も吐けないようにまた舌に舌を絡められる♡♡♡

「……あ♡♡ん♡♡……うゝん♡♡♡」

腰、突き出しちゃってる♡♡♡♡

キスを受け止めるように顎を上げ喉を反らし、引っかけやすいように背中を丸めて乳首を下げ、クリトリスが吸いやすいように腰を突き出し♡♡♡♡

嘘つけない♡♡♡♡

こんなところでセックスするのだから♡♡

気持ちいいのもっと欲しくなってるの嘘つけないよ♡

♡♡♡

「ほ、ほしい…♡♡♡♡」

「なにが？♡」

「…おちんぽ♡♡♡♡ほしい、です♡♡♡♡」

「そっかあ♡♡じゃあまずはこのまま指でイこうね♡♡♡」

ぐちゅッ♡♡♡♡

ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ
ッ♡♡♡♡

一気に中で暴れる指♡♡

「...——ッッ！！♡♡♡♡♡♡♡」

私が悲鳴を上げる前にまた唇を塞がれ、乳首は激しく
引っ搔かれ、クリトリスはバキュームされる♡♡♡♡

急に追い立てるように責められて私は必死に男にしが
みついた♡♡

かりかりかりかりかりっ！♡♡♡かりかりかりかりか
りッッ！！♡♡♡♡♡

ぢゅううううッッ♡♡♡♡ぢゅううううッッ！♡
♡♡♡♡

ぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅ
ッッ♡♡♡♡

ぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅ
ッッ♡♡♡♡

頭が真っ白になっていく♡♡

私は引き攣る腰を更に突き出して♡♡

(イクっ♡♡おまんこ指ピストンされてクリ吸われてイク♡♡♡♡イクッイクッイクッ！♡♡♡♡♡)

「…………ツ” ツ” ふ、う、…………~~~~~ツツ！！
♡♡♡♡♡」

私は足元にしゃがんだ男にクリトリスを押し付けるように腰を突き出してまたいった♡♡♡♡

「約束通り、ちんぽあげるからね♡♡おねだりできて偉い偉い♡♡♡」

茶髪の男が通路の端から読書用のパイプ椅子を持ってきて座った♡♡

そのまま私は体を引き寄せられる♡♡

男の膝の上、膝裏に腕を通され足を広げられて正面の黒髪の男に向けて座らせられた私♡♡

すぐに目の前の男の手は勃起したちんぽを露出させた♡

まっすぐに私のおまんこを狙う、カリの張った太くて赤黒い、凶暴なちんぽ♡♡

黒髪の男は私に覆い被さりながらその先を私のおまんこに押し付ける♡♡

入ってくる♡♡♡♡

ちんぽが♡♡♡♡

「はあ♡♡はっ♡♡はあっ♡♡♡」

「あれ、お姉さん発情してる？♡♡もしかしてこういうの好きだったの？しちゃいけないところですよセックス♡♡」

私の荒い呼吸に背後の茶髪の男が耳元でそう笑えば、
「おまんこもちんぽ受け入れたくてパクパクしてるね♡
ほら、入ってくよ～♡♡」

黒髪の男は唇で私の唇を食みながら腰を進めてきた♡
♡

男の膝の上で折りたたまれた体にちんぽが埋まってい
く♡♡

それはすぐに奥へ到達して、壁へ挟りながらずりと
更に上がってきた♡♡

「っふ♡♡う”♡♡♡…ッ”♡♡♡」

「せま、……♡♡でも全部埋まったよ♡♡」

男はキスの角度を変え、後ろからも前から男たちの
体で押し潰されそうな私にすぐに腰を打ちつけてきた♡



とちゅっ♡♡

「うゝ ううッ♡♡♡♡」

呻く声も吸われる♡♡

男はイスのパイプを掴むと♡♡

ずるっ♡♡とちゅっ♡♡

少し腰を引いて、ぶつけて♡♡

ずるっ♡♡とちゅっ♡♡ずるっ♡♡とちゅっ♡♡

引いて、ぶつけて、引いて、ぶつけて♡♡

ずるっ♡♡とちゅっ♡♡ずるっ♡♡とちゅっ♡♡ずる
っ♡♡とちゅっ♡♡

私のおまんこの奥にちんぽを何度もぶつけてくる♡♡



「んゝ ッ♡♡っ♡♡♡んぶ♡♡ッゝ ♡♡♡お、 ッ♡♡
♡」

とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡
とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡と
ちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とち

ゆっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅ
っ♡♡とちゅっ♡♡

まだ軽い、規則的なピストン♡♡

それが私を煽り、男に掴まれていたはずの膝は勝手に
開いていく♡もっともっと奥までちんぽが来るように♡
♡

男の腰の上でずるりと腰が下がり上向いたおまんこに、
男は更に突き込んできた♡♡

トチュッ♡♡トチュッ♡♡トチュッ♡♡トチュッ♡♡
トチュッ♡♡トチュッ♡♡トチュッ♡♡トチュッ♡♡ト
チュッ♡♡トチュッ♡♡トチュッ♡♡トチュッ♡♡

そして意識の全てがちんぽに持っていかれている私に、
背後の男が頭上から囁いてきた♡

「そのまま足開いててね♡俺はこっちしててあげるよ♡
♡」

足の筋が浮くほど大きく開いていた私の足から手を離
すと、男は腰に腕を回してきて、更に下、足を思いっき
り開いたせいで皮から少しだけ顔を覗かせていたクリト
リスを♡♡

くちゅくちゅくちゅッ♡♡

くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅッ♡♡♡♡

人差し指と中指で押し潰し、その指を上下に動かした
♡♡

「ふッ♡♡う……………ッ♡♡♡♡♡」

「お姉さんのクリぬるぬるで滑っちゃうな～♡もーっと
押し潰してあげなきゃ♡♡」

ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ
ッッ！！♡♡♡♡♡♡

更に圧をかけたまま上下に激しく指を動かす♡♡

「ん ううう——……………ッッ！！♡♡♡♡」

声が漏れそうになってそれを遮るように深くキスをさ
れて、唾液が口の端を伝った♡♡

「足の指ぎゅーって閉じてぶるぶるしてる♡♡おまんこ
ちんぽ突かれながらクリされるのたまんないね♡じゃあ
次は生クリでしてあげる♡♡」

「っ、！？」

肩を押さえるように両手が顔の横からそこへ伸びて、
左手は人差し指と中指でクリ皮をずり下げ、右手の指が
またクリトリスを押し潰し♡♡

露出された防御力ゼロのクリトリスを♡♡

ぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅ
ッッ！！♡♡♡♡♡

「！！♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

押し潰してこねる♡♡♡♡♡♡

「、ッふ♡♡♡♡う” ～～～～ッッ、ううう” っ
！！♡♡♡♡♡」

(イってる！これイってる…！！♡♡♡♡♡♡)

引き攣った足、男の服を掴む手、どちらも痙攣したよ
うに言うことをきかない♡♡

それでも黒髪の男は唇で私の唇を塞ぎながらひたすら
ピストンを繰り返し、茶髪の男は剥き出しの神経の塊を
めちゃくちゃにしごく♡♡♡♡♡

トチュトチュトチュトチュトチュトチュトチュ
ツッ！！♡♡♡♡♡

ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ
ツッ！！♡♡♡♡♡

トチュトチュトチュトチュトチュトチュトチュ
ツッ！！♡♡♡♡♡

ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ
ツッ！！♡♡♡♡♡

辛い♡♡

イってるおまんこにひたすらピストンされて♡♡♡♡♡
♡

萎えようとしてる性感帯をめちゃくちゃに刺激される
のしんどい♡♡♡♡♡

「……んう” ツ、う”、っ♡♡♡♡♡ひ♡♡♡♡♡ん、
ぐ♡♡♡♡♡♡♡」

トチュトチュトチュトチュトチュトチュトチュ
ツッ！！♡♡♡♡♡

ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ
ツッ！！♡♡♡♡♡

トチュトチュトチュトチュトチュトチュトチュ

ツッ！！♡♡♡♡♡

ぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅぐぢゅ

ツッ！！♡♡♡♡♡

受け止めきれない快感に目の焦点が合わなくなってくる♡♡

細かな瞬きの中、ぐるりと目が上を向いて、そのとき、ちゅぽ♡♡と男の唇が離れた♡♡

「っあー、出る…♡♡♡」

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅツッ！！♡♡♡♡♡♡

男は唇をぺろりと舐めてまた私の口を塞ぐと乱暴に腰を振った♡♡

射精間近の遠慮のないピストン♡♡♡♡♡

私はクリトリスをめちゃくちゃにこねられたまま立て続けに膨れ上がった絶頂感に体をしならせる♡♡♡♡

■続きは製品版にて♡